

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		知る区ロード			款	5	項	1	目	2	事業	6	整理番号	358				
担当部課名		都市整備部まちづくり推進課			係名	景観係			連絡先電話番号	3363			昨年度整理番号	447 枝番号				
上位施策No・施策名		3 住民参加のまちづくり			予算事業区分													
事務事業の概要	事業開始	昭和	▼	62年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野			政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業							
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 区民等			根拠法令等 (2)			(1) 杉並区まちづくり基本方針										
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	みどり豊かな杉並のまちを歩くことにより、見慣れた風景から新しいまちの魅力を再発見し、まちに親しみをもちます。			活動指標名(式)			(1) 知る区ロードホームページアクセス数 (2)										
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	知る区ロードのパンフレット、探検地図を作成し、配布する。 知る区ロードのルート上にある道標や休憩所(オアシス)の維持管理を行う。 すぎまるサポーター等区民と協働し、知る区ロードホームページを開設し、情報提供を行う。			成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標			成果指標名(1) (代)知る区ロード資料請求数 / ホームページ閲覧数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 算定式・指標の説明等										
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度		目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%					
			実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	22年度							
指標	活動指標(1)		人	754	2,000	992	5,000	4,771	5,000	5,000	5,000	95.4	95.4					
	活動指標(2)		部	6,000	5,000	10,000	0	0	0	0	0							
	成果指標(1)		%	5.60	20.00	6.75	1.00	0.18	1.00	1.00	1.00	18.0	18.0					
	成果指標(2)																	
総事業費・コスト把握	事業費		千円	4,811	7,136	6,162	1,293	757	1,130	20年度予算執行率% 58.5								
	(内)投資的経費等		千円	0	0	0	258	257	620	特記事項 事業費減は知る区ロードパンフレット、探検地図の印刷をボスター、チラシに変更しているためです。 執行残の理由は、知る区ロード探検地図の在庫があり、印刷を見送ったためです。 20年度以降の活動指標は知る区ロードのイベント、すぎまるマガジンの発行を休止し、情報提供を主とした事業に転換したことから、区民と協働運営している知る区ロードホームページのアクセス数としました。								
	(内)委託費		千円	1,173	1,000	2,507	478	357	120									
	職員数(常勤   非常勤)		人	0.80   0.00	0.80   0.00	0.90   0.00	0.20   0.00	0.20   0.00	0.10   0.10									
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	千円	7,248	7,312	8,226	1,810	1,810	905									
		(内)非常勤職員分	千円	0	0	0	0	0	280									
	総事業費 + +		千円	12,059	14,448	14,388	3,103	2,567	2,315									
	単位あたりコスト (-) ÷		円	15,993	7,224	14,504	569	484	339									
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0	0	0					0	0	0	0	0
		国からの補助金等		千円	0	0	0	0	0					0	0	0	0	0
都からの補助金等		千円	/	/	/	0	0	0	0					0	0	0		
その他の補助金等		千円	/	/	/	0	0	0	0	0	0	0						
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
差引:一般財源 -		千円	12,059	14,448	14,388	3,103	2,567	2,315										
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0										

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 358

20年度の事業実施状況	(1)主な取組み  (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		パンフレットの作成	5000	部	489
		その他 ( オアシスの保守点検ほか )			268
(2)事業実績	20年度以降は、知る区ロードの日(イベント)の開催とすぎまるマガジンの発行を休止し、まち歩きの情報提供を主とした事業へ転換しています。知る区ロード周知のため、パンフレットを作成しました。また、すぎまるサポーター等区民と協働し、知る区ロードホームページを開設し、情報提供を行いました。道標・オアシスの維持管理は継続して行っています。				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業当初の知る区ロードイベントは約1万人の参加者がありましたが、最近では減少傾向となっていました。19年度の20周年記念イベントでは、前年度に比べ200人ほど参加者が増えましたが、知る区ロードの日イベント自体は20周年をひとつの区切りとし、休止としました。このため、すぎまるマガジンの発行も同時に休止としています。			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	20年度以降、知る区ロードイベントの実施が休止になり、毎年楽しみにしている子どもや家族から、残念だという声があります。			
	今後の予測	知る区ロードは、区民に自分たちのまちを歩いて知ってもらう普及啓発事業の一環として始めた事業です。このこと自体は意義のあることですし、また、メタボリックシンドローム予防、対策として、歩くことの重要性が注目されていますので、他課と連携するなどして、これまで築きあげてきた資産を活用しながら事業継続していきます。			
事業のあり方点検	左の理由または具体的内容				
	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 中(理由 )	「知る区ロード」が直接、まちづくりに結びつくわけではありませんが、杉並独自のソフトなまちづくり事業の一つとして、全国的に知名度が高いものです。			
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	これまで築き上げてきたオアシスや探検地図などの資産があるので、ソフトとして事業を継続し、新たな参加者を迎え、まちづくりへに関心を持つ区民を増やしていくことは可能です。 これまでのイベント主体の事業から、まち歩きやまちの魅力についての情報発信を主とした事業に転換します。			
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	休憩所(オアシス)や道標などの施設管理は行う必要があります。			
	(4) コストを下げる余地はあるか ある [その他] (具体的内容 )	今後の情報提供については、区民(すぎまるサポーター)が主体となって、企画運営に関わることで、コストを下げる事が可能です。			
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)			
	(3) 協働等の形態 協働[実行委員会・協議会]	(4) 協働等の今後のあり方 推進			
評価と課題	自分たちのまちを知ってもらうきっかけづくりであり、また、小さな子どもから高齢者まで参加できる事業として継続します。今後はボランティアなどの協力により、新規に利用してもらえるようにPRなどの仕掛けを作り、最小の経費で効果の上がる事業に転換していきます。				

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	コスト:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	まち歩きの情報提供等を主とした事業への転換を目指しましたが、すぎまるサポーターが主体となって企画運営を行い、区が側面から支援するという構図が確立したとはまだ言いがたい状況です。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうするかたちに)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 知る区ロード事業を再点検し、誰もが関心を持ち、参加しやすく、満足感を得られる仕掛けづくりを検討します。							
(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	イベントが休止となり、情報提供を主とした内容に転換するため、すぎまるサポーターのモチベーションが下がる恐れがあります。サポーターも関心を持ち続けることできるように連携していくことが必要です。								
22年度方針	(1)22年度予算見積りの方向性	<input type="radio"/> 大幅増	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 増減なし	<input type="radio"/> 減	<input type="radio"/> 大幅減	<input type="radio"/> 予算なし		
	(2)理由	まち歩きの情報提供を中心に、新たな工夫を取り入れながら事業を継続していきます。							

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		まちづくり施策の推進			款	5	項	1	目	2	事業	7	整理番号	359			
担当部課名		都市整備部まちづくり推進課			係名	管理係			連絡先電話番号		3362		昨年度整理番号	448		枝番号	
上位施策No・施策名		3 住民参加のまちづくり			予算事業区分												
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	12	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	1	政策番号	1	施策番号	1	事業コード	4, 5	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業
	対象		<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		区内で自主的なまちづくり活動を行っている団体等		根拠法令等		(1) 杉並区まちづくり条例 (2) 杉並区まちづくり助成要綱								
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		まちづくりの機運を高め、地域住民の交流及び生活環境の向上を図るため、地域の住民主体によるまちづくりルールの作成など積極的にまちづくり制度を活用できる団体の育成		活動指標名(式)		(1) 活動助成団体数 (2) コンサルタント派遣件数										
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		まちづくり助成金の交付 まちづくり団体や認定されたまちづくり協議会の活動経費の一部助成 コンサルタント派遣 まちづくりの専門家の派遣		成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標		成果指標名(1)		(代) 活動助成団体数								
				算定式・指標の説明等		助成金を支払ったまちづくり団体や協議会の数											
				成果指標名(2)		(代) コンサルタント派遣件数											
				算定式・指標の説明等		コンサルタントの派遣を受けた団体の数											
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度		目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%				
			実績		計画		実績		計画		22年度						
指標	活動指標(1)		団体	9	13	9	15	12	25	25	48.0	80.0					
	活動指標(2)		件	1	6	0	6	2	6	6	33.3	33.3					
	成果指標(1)		団体	9	13	9	15	12	25	25	48.0	80.0					
	成果指標(2)		件	1	6	0	6	2	6	6	33.3	33.3					
総事業費・コスト把握	事業費		千円	1,892	5,954	2,936	8,426	4,769	8,353	20年度予算執行率% 56.6							
	(内)投資的経費等		千円	0	0	0	0	0	0	特記事項							
	(内)委託費		千円	0	0	0	4,926	2,739	2,147	活動指標の数値はこれまで経営計画書等と相違があったため、考え方を整理して、上記成果指標の説明のとおりとしました。							
	職員数(常勤 非常勤)		人	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	2.47 0.00	2.49 0.00	2.50 0.00	20年度は評価対象事務事業の考え方が、予算事業名に基づくものと変更されたため、また、東京都市計画決定のための計画図作成等の単年度事業によりコスト増となっています。							
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	千円	4,530	4,570	4,570	22,354	22,535	22,625	21年度は単年度経費はありませんが、新事業として、「まちづくり景観審議会の運営」が追加されました。達成率と予算執行率は19年度に比べて伸びてはいるものの、まだ低い数値になっているため、引き続き制度の周知と利用団体の増加に努めます。							
		(内)非常勤職員分	千円	0	0	0	0	0	0								
	総事業費 + +		千円	6,422	10,524	7,506	30,780	27,304	30,978								
	単位あたりコスト (-)÷		円	713,556	809,538	834,000	2,052,000	2,275,333	1,239,120								
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0										
		国からの補助金等		千円	0	0	0										
都からの補助金等		千円															
その他の補助金等		千円															
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0									
差引:一般財源 -		千円	6,422	10,524	7,506	30,780	27,304	30,978									
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 359

20年度 の事業 実施 状況	内 容	規模	単位	事業費(千円)
(1)主な取組み  (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	まちづくり活動団体補助金	8	団体	666
	まちづくり協議会運営費助成(執)	4	団体	313
	まちづくりコンサルタントの派遣	2	団体	117
	その他(講師謝礼ほか)			3,673
(2)事業実績	京王線連続立体化の関係で沿線のまちづくり協議会が立ち上がったため、認定協議会の数が増加し、助成額が増加しています。また、前年度0件であったコンサルタントの派遣は、市街地再開発対応等で2団体から申請がありました。21年度も引き続き利用を案内していきます。			

事業 環境 の 変化	(平成)											(年)									
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	12	13		14	15	16	17	18	19	20		
	事業開始当初から 現在までの変化	活動助成団体数	12	12	15	13	8	5	7	7	8		(団体)								
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	コンサルタント派遣団体数	2	3	2	6	5	3	1	0	2		(団体)								
	協議会助成団体数				1	1	2	2	2	4	(団体)										
今後の予測	まちづくり条例の改正により、新たにテーマ型まちづくり協議会としての認定が規定されました。活動助成を受けた団体がより手厚い支援を求めて新たな認定協議会へのステップアップを期待しているものと思われます。																				
	市街地整備型でない協議会認定への道筋が開けたので、住民団体にとってより身近な制度として受け止められるようになります。これに伴い、コンサルタントの派遣制度や協議会の認定基準を精査していく必要が生じると思われます。																				

事業の あり 方 点 検	左の理由または具体的内容	
	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由 )	区民の自主的なまちづくり活動に対して、まちづくり条例に位置づけられた技術的・経済的支援を行うことで、より区民のまちづくりへの参画を促進します。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( )	成果向上のための方策 その他(具体的内容 )
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	制度の周知ときめ細かい団体へのケア
(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	身近な地域環境の改善向上を図る目的で行われる区民の自主的なまちづくり活動を支援するものであり、受益者負担にはなじみません。	
	まちづくりは区民、行政、事業者が協働のもとに推進される必要があり、とりわけ区民の参画を促進するためには、区によるさまざまな支援策が必要です。	

協働等 点 検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)
	(3) 協働等の形態 協働[補助・助成]	(4) 協働等の今後のあり方 推進

評価と課題  
まちづくり団体やまちづくり協議会の活動助成に取り組んできましたが、近年は助成団体数に大きな変化は見られませんでした。まちづくり条例の改正を機に、段階的な活動助成や積極的なコンサルタント派遣ができるよう制度を改正したので、広く区民に周知していきます。

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	○ 増	● 現状維持	○ 減	コスト:	○ 増	● 現状維持	○ 減	
	(1) 前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	まちづくり条例の改正とそれに基づく支援要綱の見直しに精力的に取り組ましました。その結果、まちづくり協議会に新たなタイプとしてテーマ型を加えること 協議会の認定等を新たに設置したまちづくり景観審議会で審議すること 助成額にメリハリをつけて団体の成熟度に応じた段階的支援を行うこと これまで不可能だった助成金とコンサルタント派遣の双方の申請を可能とし、団体の育成をはかること、等の改正を行いました。							
	(2) 改革案の概要(いつまでに、どうするか)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 今後新たな制度をスムーズに運用していくために、単なる助成金の支給にとどまらず、参画してきた区民団体へのきめ細かいフォローをしていく必要があります。							
(3) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	団体の活動内容によっては、所管が多岐にわたることも考えられるため、新たなまちづくり条例や支援制度の概要を他部署にも周知して、団体育成や団体の活動目的達成のため、協力を体制をつくる必要があります。								

22年度方針	(1) 22年度予算見積の方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし
	(2) 理由	引き続き制度の周知と運用に努めます。					